

CONTENTS

- P1 【活動報告】平成 14 年度定期総会開催報告
 P2 【活動報告】平成 14 年度定期総会開催報告
 P3 【活動報告】ITS 講演会開催報告
 P4 【お知らせ】

NO. 6

活動報告：平成 14 年度定期総会開催報告

さる平成 14 年 5 月 20 日(月) ホテル札幌ガーデンパレスにおきまして、札幌圏 ITS 推進フォーラムの平成 14 年度定期総会が開催されました。当日は 55 会員(委任 18 含む)の参加により総会は開始されました。

議事の進行に先立ち、山本会長からご挨拶をいただき、続いて規約に則り山本会長を議長に選出し、議事が進められました。

第 1 号議案「平成 13 年事業報告」について、事務局からの報告後、会員の了承の上、議案は可決されました。第 2 号議案「平成 13 年度会計報告」について、事務局からの報告後、監事を代表して石本監事(竹内監事の後任)から監査報告があり、会員の了承の上、議案は可決されました。第 3 号議案「平成 14 年度役員および幹事」について、事務局からの報告後、会員の了承の上、議案は可決されました。第 4 号議案「平成 14 年度事業計画(案)」について、事務局からの説明後、会員の了承の上、議案は可決されました。第 5 号議案「平成 14 年度予算(案)」について、事務局からの説明後、会員の了承の上、議案は可決されました。

以上で予定されていた議案は全て終え、総会は終了いたしました。総会の運営にあたり会員の皆様にも多大なるご協力をいただきましたことについて、事務局よりあらためてお礼申し上げます。(以上、報告：事務局 金村直俊)



(上写真)平成 14 年度定期総会の様子

定期総会

日時：平成 14 年 5 月 20 日(月) 14 時～14 時 30 分
 場所：ホテル札幌ガーデンパレス丹頂の間
 (札幌市中央区北 1 条西 6 丁目)

平成 14 年度会員(平成 14 年 5 月 20 日現在)

法人会員：58 会員
 個人会員：13 会員
 特別会員：15 会員

平成 14 年度役員構成(平成 14 年 5 月 20 日現在)

会長：山本 強(北海道大学大学院工学研究科教授)
 副会長：西條 肇昌(札幌市建設局長)
 小長井宣生
 (独立行政法人北海道開発土木研究所道路部長)
 佐々木晴美
 (社団法人北海道開発技術センター理事長)
 監事：五十嵐真喜(北海道建設部道路計画課長)
 野坂 隆一
 (財団法人北海道道路管理技術センター参与)
 石本 敬志
 (財団法人日本気象協会北海道支社参与)
 (以上、敬称略)

平成 14 年度幹事構成(平成 14 年 5 月 20 日現在)

幹事長：加治屋安彦
 (北海道開発土木研究所道路部防災雪氷研究室長)
 幹事：大井 立也(北海道建設部道路計画課)
 高松 康廣(札幌市建設局管理部雪対策室)
 川口 守((財)北海道道路管理技術センター)
 太田 祐司(株式会社ドーコン)
 正岡 久明(株式会社シーイーサービス)
 丹治 和博((財)日本気象協会北海道支社)
 伊藤 信之((社)北海道開発技術センター)
 加藤 誠司(株式会社社長大)
 金村 直俊(札幌総合情報センター株式会社)
 (以上、敬称略)

平成 13 年度事業報告

1. 啓発・普及事業

- 1) 「さあ未来を見に行こう～ITS で変わる暮らし」刊行
- 2) 講演会/セミナー開催(2 回)
 - ア) 「ITS に関する講演会」
 平成 13 年 5 月 8 日(火) 参加者：90 名
 「リスクマネジメントと ITS」
 北海道大学大学院工学研究科教授 佐藤馨一 氏
 「北海道高度情報化計画について」
 北海道総合企画部情報政策課 藪 紀洋 氏
 - イ) 「ITS に係る日本のシステムアーキテクチャセミナー」
 平成 13 年 8 月 31 日(金) 参加者：136 名
 「北海道における ITS に向けて」
 北海道大学大学院工学研究科教授 佐藤馨一 氏
 「日本のシステムアーキテクチャ」
 東洋大学工学部環境建設学科助教授 尾崎晴男 氏
 「システムアーキテクチャの活用」
 ITS Japan SA プロジェクト委員 杉浦孝明 氏
- 3) 2002PIARC 国際冬期道路会議札幌大会展示
- 4) ホームページ運用

2. 会員サービス事業

- 1) 定期総会開催：平成 13 年 5 月 8 日（火）
- 2) 会報発行（第 5 号、平成 14 年 3 月）
- 3) 資料発送
 - ・ さあ未来を見に行こう～ITS で変わる暮らし
 - ・ 北海道 ITS 推進プラン
 - ・ 札幌 ITS 基本構想
 - ・ 第 11 回国際道路気象会議論文集 他

3. 調査・研究事業

- 1) 札幌圏における ITS 事例の調査
 - ・ 道路情報館（北海道開発局札幌開発建設部）
 - ・ 北の道ナビ（北海道開発土木研究所）
 - ・ ノンストップ自動料金支払いシステム（日本道路公団）
 - ・ 道路交通情報通信システム
 - ・ 冬季道路交通情報システム（札幌市）
 - ・ 寒冷地 AHS の研究開発（北海道開発土木研究所）
 - ・ 札幌市公共交通情報提供システム（札幌市）
 - ・ 公共車両優先システム（北海道警察）

4. 協力・推進事業

- 1) シンポジウム「北海道における ITS を考える」後援
平成 14 年 1 月 29 日（火）参加者 200 名
- 2) 第 11 回国際道路気象会議協賛
平成 14 年 1 月 26 日（土）～28 日（月）参加者 203 名
- 3) フォーラムへの視察対応
平成 14 年 1 月 28 日（月）参加者 ITS Japan30 名
- 4) ITS 世界会議愛知・名古屋 2004 委員会への参加

平成 13 年度会計報告

1. 収入（単位：円）

科目	金額	備考
1. 前年度繰越	479,922	
2. 会費	1,202,000	
3. 雑収入	129	預金利息等
合計	1,682,051	

2. 支出（単位：円）

科目	金額	備考
1. 事業費	1,383,252	
(1) 啓発普及	996,450	資料作成、講演会等
(2) 会員サービス	186,802	総会開催、会報発行等
(3) 調査研究	0	
(4) 協力推進	200,000	国際道路気象会議協賛
2. 管理費	67,785	通信印刷費等
合計	1,451,037	
残高	231,014	次年度繰越

平成 14 年度事業計画

1. 啓発・普及事業

- 1) 講演会の開催：2 回程度
- 2) ホームページの運用

2. 会員サービス事業

- 1) 定期総会開催（1 回）
- 2) 会報の作成及び発行（2 回、6 月・12 月を予定）

3. 調査研究事業

- 1) 産学官民連携による地域 ITS 推進研究会の開催
産学官民の連携による地域 ITS の展開方法や地域情報の活用方法について検討する研究会を設け、研究会を開催（5 回

程度/年、主に札幌市内)

- 2) フォーラム将来体制検討ワーキンググループの開催
全国的な地域 ITS の展開方法を踏まえつつ、札幌圏及び北海道における当フォーラムの役割と方向性を検討するワーキンググループを設け、検討会を開催（5 回程度/年、主に札幌市内）

4. 協力・推進事業

- 1) 関連講演会・会議等への後援や協賛
- 2) ITS 世界会議愛知・名古屋日本組織委員会への参加

平成 14 年度予算

1. 収入（単位：円）

科目	金額	備考
1. 前年度繰越	213,014	
2. 会費	1,206,000	
3. 雑収入	1,000	預金利息等
合計	1,438,014	

2. 支出（単位：円）

科目	金額	備考
1. 事業費	1,200,000	
(1) 啓発普及	600,000	講演会開催他
(2) 会員サービス	300,000	総会開催、会報発行他
(3) 調査研究	200,000	研究会開催他
(4) 協力推進	100,000	ITS 世界会議委員会他
2. 管理費	70,000	通信印刷費他
3. 予備費	168,014	
合計	1,438,014	

事務局よりお知らせ

フォーラムでは各種連絡・お知らせ、特別会員の国・地方自治体の方からの事業や公募のご案内等を電子メールでお伝えしております。電子メールアドレスをお持ちの方で、まだ登録がお済みでない方は、この機会にぜひメールアドレスをお知らせください。info@sapporo-its.gr.jp または 011-232-0048(FAX)で受付しております。ご連絡の際は、会員名と電子メールアドレスを忘れずお願いいたします。連絡先が変更になった場合は変更申込書をご利用の上、郵送または FAX で事務局まで送付願います。
年会費納入のお願い
年会費をまだお納めになっていない方はお早めにお納め願います。なお振り込み手数料は各自でご負担願います。
(振込先) 北洋銀行札幌市役所支店 (普)3135872
札幌圏 ITS 推進フォーラム
会報第 6 号は平成 14 年 12 月発行予定です。

編集・発行 / 札幌圏 ITS 推進フォーラム (Sapporo ITS Forum)

<http://www.sapporo-its.gr.jp/>

事務局 / 〒060-0001

札幌市中央区北 1 条西 3 丁目 MN ビル 10 階 札幌総合情報センター(株)内

TEL 011(232)4848 FAX 011(232)0048

E-mail info@sapporo-its.gr.jp

事務局長：中村 久、事務局員：金村 直俊、安藤 浩司

ITS 講演会開催報告

さる5月20日(月)ホテル札幌ガーデンパレスにおきまして当フォーラム主催によりITSに関する講演会を開催いたしました。講演会にはフォーラム会員を含め62名の方にご参加いただきました。講演会の内容は以下のとおりです。

日時:

平成14年5月20日(月)14時40分~16時

場所:

ホテル札幌ガーデンパレス丹頂の間

演題:

- 1)「北海道のITSの取り組みについて」
講師:国土交通省北海道開発局
建設部道路計画課課長補佐 高橋 渡 氏
- 2)「S.M.A.P.カード実験について」
講師:札幌総合情報センター株式会社
地域情報システム開発事業部長 樋口 洋一 氏
- 3)「ITビジネスから見たITS」
講師:サンエスグループ代表 宮田 昌和 氏

内容:

まず高橋氏より「北海道のITSの取り組みについて」と題してご講演いただきました。

発表内容は大きく4つに分かれ、「北海道の地域課題とその対応」「北海道のITSの取り組み事例」「ITS実現に向けた取り組み」「北海道のITS推進」でした。

では、北海道の特徴的課題として(1)冬への対応、(2)防災・安全への対応、(3)地域の活性化・観光の支援を指摘されました。では併せて12の事例をご紹介いただきました。

では、ITSの実現に必要である情報通信基盤について、国道の光ファイバーの敷設状況等についてご説明いただきました。では今後のITSの推進体制の確立が必要であることをお話いただきました。



(上写真) ご講演される高橋氏

次に樋口氏より非接触ICカードであるS.M.A.P.カード実験についてご講演いただきました。

S.M.A.P.カードは、電子マネー、電子ポイント、電子チケットなど、バリュー(価値)をやり取りする機能を持ち、札

幌市営地下鉄での乗降を始め、PDA(携帯端末)と組み合わせたオンライン上でのバリューの購入や確認、大規模イベント時の円滑な移動手段を確保するための実証実験等に利用されていることが紹介されました。

また、ICクレジットカード等と比較しながら、小額決済の方向性とS.M.A.P.カードの未来についてお話いただきました。



(上写真) ご講演される樋口氏

最後に「ITビジネスから見たITS~ITSの北海道らしい展開の可能性」と題し、サンエスグループ代表の宮田氏よりご講演いただきました。

宮田氏は、これからの問題解決スタイルとして、北海道的なITSビジネスや地域、理論には、産学官民の連携が必要であり、ネットワークの中で道(みち)と暮らしを考える必要性、利用する市民ニーズ、潜在ニーズに目を向けること、また顧客指向で顧客満足を考慮することなどについて、ビジネスの背景や目的・役割などをご紹介いただきながら、ご説明いただきました。

最後に北海道らしいITSの提案を、ネットワークによってアイデアを集め、形にしていきながら地域の生活、経済、文化を豊かにしていくことをご提案されました。



(上写真) ご講演される宮田氏

講演の終了後、短い時間でしたが、参加者からの質問もあり、終了となりました(以上、報告:事務局 金村直俊)

「ニセコ・羊蹄・洞爺e街道(6/21~11/4)」

携帯電話を活用した情報提供実験 ~ 参加モニター募集中!

独立行政法人北海道開発土木研究所を中心とする官民共同の実験協議会が、北海道における地域ITS(高度道路交通システム)の一環として、道路や気象、観光情報などをインターネットで携帯電話に提供する実験「ニセコ・羊蹄・洞爺e街道」を平成14年6月21日から平成14年11月4日まで実施している。この実験は、観光地を訪れる旅行者を対象に道路・気象情報などを提供することで道路の安全性・利便性の向上を図るとともに、観光情報などの提供で地域の活性化を図る目的で行われる。

実験には、携帯電話(i-mode,EZ-web,J-SKY)を持っている方なら、実験期間中いつでも参加することが出来る。参加モニターがいる場所や、希望する内容に応じてEメールやインターネットで携帯電話に情報が提供される。情報の内容は、エリア内の通行止めなどの道路情報、天気予報などの気象情報、15市町村からのメッセージやイベント情報、各種観光情報(自然・温泉・文化・体験・飲食・宿泊)などである。また、ニセコ・羊蹄・洞爺エリアのチェックポイントを回り、携帯電話でクイズに答える「モバイルラリー」も同時に行っている。

実験の詳細内容は、実験ホームページ(<http://www.e-kaido.jp/>)または、現地チェックポイントなどで掲示しているポスターやチラシを参照していただきたい。なお、参加申し込みは携帯電話(i-mode,EZ-web,J-SKY)またはパソコンで実験ホームページから行える。

詳しくは、北海道開発土木研究所防災雪氷研究室(011-841-1746)まで。

報道発表資料

<http://www2.ceri.go.jp/its-win/e-kaido2002.htm>

「ニセコ・羊蹄・洞爺e街道」 <http://www.e-kaido.jp/>
E-mail: e-kaido@its-win.jp



北海道経済産業局関連 各種事業公募

<公益信託みずほニュービジネス育成基金>

<http://www.ffnet.or.jp/mizuhofund/>

提案者の要件

中小企業または個人事業者及び個人の研究者

対象事業

以下の業種に該当する新技術、新製品、新サービス開発のためのプロジェクト(研究開発)

(1)マルチメディア・情報通信

(2)新技術(半導体・液晶・光ファイバー等)

(3)新市場(環境・エネルギー・ヘルスケア等)

限度額、助成率

1000万円。1/2

公募期限

平成14年9月30日(月)

問い合わせ先・申請先

みずほ信託銀行(株)流動化企画管理部

「公益信託みずほニュービジネス育成基金」受託者

〒100-8240 東京都千代田区丸の内1-5-1

新丸の内ビルディング tel: 03-3240-7212

<研究開発補助事業(IT化推進)>

<http://www.hsc.or.jp>

提案者の要件

中小企業または個人事業者。但しSE等の新規雇用が必要対象事業

新規性のあるソフトウェアやシステムの開発を伴う研究開発

限度額、助成率

1000万円。対象経費の1/2。

公募期限

随時。予算の範囲内で(あと4~5件分は余剰があるようです)

問い合わせ先・申請先

(財)北海道中小企業総合支援センター新産業育成部

研究助成課

〒060-0001 札幌市中央区北1条西2丁目経済センター

ビル9F

tel: 011-232-2403 fax: 011-232-2011

e-mail: info@hsc.or.jp

<札幌銀行ドリーム基金>

提案者の要件

中小企業または個人事業者。但し道内に主たる事業所を有し原則1年以上継続して事業を営んでいること

対象事業

単独または共同で行う新技術・新製品の研究開発

限度額、採択件数

100万円。本年は3件を採択予定

公募期限

平成14年10月31日(木)

問い合わせ先・申請先

(財)札幌銀行中小企業新技術研究助成基金 事務局

〒060-8510 札幌市中央区大通西4丁目札幌銀行

業務部内

tel: 011-251-2111 fax: 011-251-3647

(注意)

実際に応募される方は必ず公募要領やHPで詳細を確認してください。